浅野 高史／著
かながわレファレンス探検隊／著
柏書房

図書館のプロが教える<調べるコツ>　1

誰でも使えるレファレンス・サービス事例集

調べる楽しさ，伝える喜び

（分類）015.2

「夕焼けはなぜ赤い？」誰もが抱く疑問から，予想もつかない調べものを日々お手伝いする図書館業務，レファレンスサービス。調べるコツがつかめなかった頃の自分にエールをくれたのがこの本。舞台は架空の図書館「あかね市立図書館」。勤務する８名が奮闘し，様々な質問に立ち向かうドラマのような展開が面白い！情報源となる様々なツールを駆使し，情報収集する事例が沢山掲載。図書館で調べる楽しさを感じてもらえる一冊です。

（醍醐図書館司書）

祖父江 慎／著
パイインターナショナル

祖父江慎+コズフィッシュ　SINCE 1990　2

制作期間 11 年，幻の本

022.57

ブックデザイナー祖父江慎の主だった仕事が網羅されています。この本，発売を予告してから実際に出来上がるまで 11 年。出版されないまま出版記念イベントまで開催されました。

ブックデザイナーとは，大きさ，使用する紙，本文の文字組，装丁など「本」を本の形にするためにデザインを考える人のことです。

ぜひ実際に手に取ってページをめくってみてください。印刷された本ならではの魅力と可能性を発見できる本です。

（右京中央図書館司書）

東京子ども図書館／編集
東京子ども図書館

私たちの選んだ子どもの本　改訂新版　3

たのしい！読書のお稽古

028.09

この本は，子どもの本の推薦リストです。幼児から始まり，最後は中学以上が対象年齢の本が紹介されています。第１冊目の『あおくんときいろちゃん』から順に読み始めてみたところ，作品の面白さに自然と次の本へと手が伸びていき，いつのまにか読む力がついていて，難しくて以前は読み進められなかった『ゲド戦記』シリーズまで楽しむことができるようになった経験は，今の児童サービスを行う上での原動力となっています。

※現在は『今、この本を子どもの手に』として発行。

（岩倉図書館司書）

リチャード・カールソン／著
小沢 瑞穂／訳
サンマーク出版

小さいことにくよくよするな!　4

しょせん、すべては小さなこと

しょせん，すべては小さなこと

159

日常に起きるちょっとした問題や細かい心配事に，悩み落ち込むことの多かった私が，もっと穏やかに生きるには，人に対してもやさしくて思いやりのある人になるにはどうすればいいのかを学んだ本です。

本書では 100 の項目が掲げてあります。「批判は受けとめれば消えていく」，「人生は不公平，が当たり前」，「落ち込みは優雅にやり過ごす」など，その時の自分の状態に合った項目を選んで読むと気持ちが楽になる一冊です。

（東山図書館司書）

道元／著
中村 璋八 ほか／訳
講談社

典座教訓(てんぞきょうくん)・赴粥飯法(ふしゅくはんぽう)　5

高僧が教えてくれる食への姿勢

188.86

典座とは，禅寺で修行僧の食を司る僧のことであり，その心構えについて著されたのがこの書である。

米を炊くのも理にかなった方法で行うべきとの記述や，道具を清潔に保ち整理整頓せよとの記述などから，13 世紀のこの書が十分に現代的な科学の視点を持っていることが窺える。さらに扱う食材によって態度を変えないことなど，食への真摯な向き合い方を説く。

お盆の，精進料理を作る頃に必ず開く。姿勢を正して読みたい書だ。

（洛西図書館司書）

渡辺 和子／著
幻冬舎

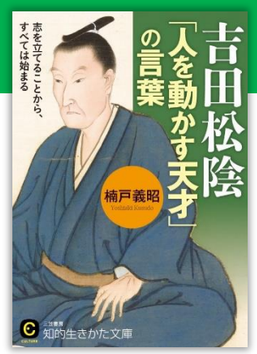
置かれた場所で咲きなさい　6

時間の使い方は，いのちの使い方

198.24

学校法人ノートルダム清心学園理事長でシスターの故・渡辺和子さんの著書。人生の中で，「こんなはずじゃなかった」と思う状況に，何度も遭遇するはず。どんな状況の中でも，「咲く」努力をしよう。どうしても咲けない時もある。その時には，次に咲く花がより大きく美しいものになるように，下へ下へ根をのばして。「咲く」ことは「諦める」ことではない。自分らしく生きること。人はどんな境遇でも輝くことができるから……。

（醍醐図書館司書）



吉田松陰「人を動かす天才」の言葉

志を立てることから、すべては始まる

7

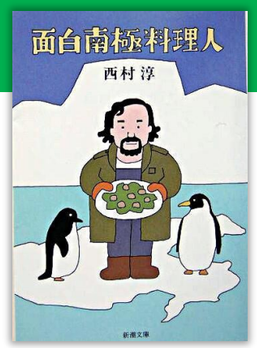
志高く生きよう

289.1

吉田松陰が大切にしてきた言葉の中で，「至誠にして動かざる者未だ之れ有らざるなり」という言葉がある。これは，真心をもってすれば，不可能なことはないということである。ゆるがぬ志を持って行動する幕末の志士の生き方に感銘をうけ，自分の人生にも志を高く持つことが大切だと感じた。何事においても向上心を忘れずに，誠心誠意挑んでいきたいと思っている。

楠戸 義昭／著
三笠書房

（南図書館司書）



面白南極料理人

8

何とかなる，ではなく何とかする

297.9

本作は第 38 次南極観測隊ドーム基地越冬隊に，調理担当として参加した著者の目線から描いた 9 名の普通のオジサンたちの日常記録である。南極大陸の中でも標高 3,800m，平均気温－57℃，生物はおろかウイルスさえも存在が許されない，過酷な場所での日常とはどんなものか。途方もなく閉鎖的で，限られた環境下での生活の有りさまは，衝撃的で，創意工夫に満ち溢れ，“当たり前”のありがたさや人間の力強さを教えてくれます。

西村 淳／著
新潮社（新潮文庫）

（移動図書館司書）

よいこの君主論

9

これから君主を目指すあなたへ

311.237

マキャヴェリの『君主論』を勉強するために，入門書を探していたとき見つけたのがこちらの本。

小学生のひろしくんが，『君主論』を使い，クラスの覇王を目指すというストーリーを通して，マキャヴェリズムについて解説されています。

これからマキャヴェリや，『君主論』を勉強したい方にはもちろん，学校や職場，井戸端会議などで覇権を握りたい方にもオススメです。ぜひ，読んでみてください！

架神 恭介／著
辰巳 一世／著
筑摩書房

（北図書館司書）

知りたい会いたい 特徴がよくわかるコケ図鑑

10

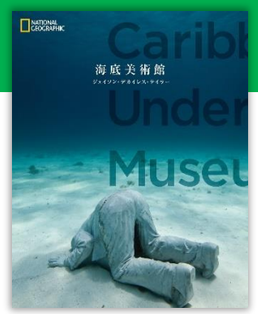
イチオシはエゾスナゴケ！！

475.038

いろんな場所で皆さんも目にしたことがあるであろう植物，コケ。1 本では生きられない，か弱い存在ですが，土を必要としない彼らは，ありとあらゆる場所（砂漠や海をのぞく）で生きられる，実はすごい存在なのです。種類もたくさんあって，日本だけでも約 1,030 種類が知られています。それぞれに好みの環境があり，少しでも条件が違えば生えません。この本片手に，そんなユニークなコケの観察に出かけてみませんか？

藤井 久子／著
秋山 弘之／監修
家の光協会

（伏見中央図書館司書）



海底美術館

11

芸術から環境問題を考える

717.087

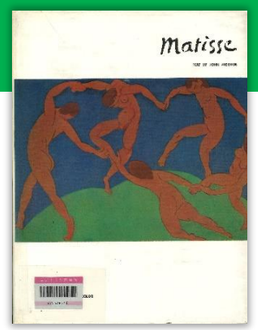
本書は，海底に展示されている彫刻の写真集。これらの彫刻はサンゴの住処となり，さらに魚の産卵場所となることもある。

海に沈む彫刻は，幻想的であり心を奪われる。海と生物によって彫刻作品が変化していく点も他の芸術作品にない魅力だ。しかし，その一方でサンゴ礁の多くが人間によって危機にさらされている現実を考えずにはいられない。

作品に対する感動だけでなく，環境についても考えるきっかけをくれた一冊。

ジェイソン・デカイレス・テイラー／著
ジェームズ・バクストン／著
内山 卓則／訳　尾澤 和幸／訳
日経ナショナルジオグラフィック社

（中央図書館司書）



マティス （世界の巨匠シリーズ）

12

明るいマティス

723.35

人間として真剣に人生について思索し，心が固くなっていた時に出会い，何度も心の扉を開けた本。アンリ・マティスの絵の大胆な構図，単純でのびやかな曲線，たのしいテーマ，明るく強く深みと温か味のある色彩。大学の授業のお昼休みに，大学図書館へ行き，大きなマティスの画集のページをめくり，心身ともに自由に解き放たれた。

マティス／画
John Jacobus／解説
島田 紀夫／訳
美術出版社

（久我のもり図書館司書）

'80s 少女漫画ふろくコレクション　13

結局もったいなくて使えなかった　726.101

私が色々な本を見るようになった切っ掛けは，少女漫画との出会いがあったからです。華やかな世界は憧れでもあり，生活の中の癒しでもあり，嫌な事に向き合う勇気をもたらしてくれました。今よりずっと狭かった子どもの頃の世界は，少女漫画で得たキラキラした情緒を土台に，もっと沢山の事や物語を知りたい欲求から大きくなってきたのだと思います。同じように，この本に載っている付録が宝物だった人がいるのではないでしょうか？

ゆかしなもん／著
グラフィック社

（コミュニティプラザ深草図書館司書）

デリカシー体操　ヨシタケシンスケスケッチ集　14

こころがほっこりします　726.1

小さな愛らしいイラストで，日常の何気ないひとコマや作家さんの胸の内が描かれたスケッチ集です。

ページをめくるたびふふっと笑えたり，添えられている言葉にこころが軽くなったり。落ち込んだ時に自分を励ますために描かれていたとか。

ありふれた出来事も自分次第でおもしろく。違った見方や柔軟な発想が力になることを気づかせてくれました。

ヨシタケ シンスケ／著
グラフィック社

（コミュニティプラザ深草図書館司書）

熊田千佳慕クマチカ先生の図鑑画集　15

心の根っこにある世界　726.5

私が生まれて初めて買ってもらった絵本は『おやゆびひめ』でした。毎日毎日，何回も見ていました。私が夢中になったのは，対象に真摯に向き合い誠実に描かれた絵でした。私は「絵を見る」というより，その世界の中で虫や花や鳥を何百回も観察していたのです。大きくなって熊田千佳慕という人の絵を見たとき，あの絵だとすぐわかりました。その絵は今も私の心の一番奥にずっとあって，「見る」ことの根っこになっているのです。

熊田 千佳慕／著
求龍堂

（洛西図書館司書）

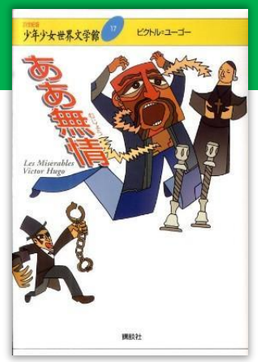
遠い町から来た話　16

平凡な毎日のちょっと不思議な話　726.6

文化や価値観の違う人に出会ったとき，私に勇気をくれる言葉があります。それは本書に収録されている『エリック』の，「きっとお国柄ね」です。異次元からのちっちゃな交換留学生“エリック”。生活は食器棚の中で，興味を示すのは道端に落ちているものばかり。戸惑う「ぼく」に母さんが言う言葉です。『エリック』を含めて 15 もの不思議な話が詰まっているこの本。凝ったデザインや独特な世界観が魅力的です。

ショーン・タン／著
岸本 佐知子／訳
河出書房新社

（醍醐中央図書館司書）



ああ無情　（21 世紀版少年少女世界文学館　17）　17

情けは人の為ならず　908.3

生きていくための些細な犯罪でも，一度犯罪者としてのレッテルを貼られると，そこから抜け出すのがいかに大変かを教えてくれた本です。また，そんな状況からでも心を入れ替えて人のために尽くせば，最期に報われるという希望も持たせてくれます。

子どもの頃は，名前のつけられないもやもやした感情を抱えることも多々ありましたが，喜怒哀楽のすべてがつまったこの作品を読むことで，気持ちをスッキリさせていました。

ビクトル=ユーゴー／著
塚原 亮一／訳
講談社

（東山図書館司書）

幼い子の文学　18

幼い子の想像力を育てるには　909

児童書の担当になった時，先輩司書にすすめられたのが，この一冊です。児童文学の評論や翻訳で著名な瀬田貞二さんの講話をまとめたもので，絵本，なぞなぞ，童謡，詩，幼年物語と，どんなお話が子どもの心をひきつけるかが，書かれています。私はこの本で，幼い子どもが一番初めに触れる文学は絵本であり，どんな絵本を読んでもらったかによって，その後の読書に影響を与えるという事と，児童書を選ぶ基礎を学びました。

瀬田 貞二／著
中央公論新社

（南図書館司書）

岡 真史／著
高 史明／編
岡 百合子／編
筑摩書房

ぼくは 12 歳　岡真史詩集　19

生きている彼と話したかった　911

小学生のある日，大人になるのがとても怖くなり，生きていたくないと思った。そんな時にこの本に出会った。何度読んでも彼がなぜ死んだのか答えが見つからない。恋・友情・将来への不安……全てか？「ちゃんとした大人」になれないと絶望した小学生の私は，こんな大人びた詩を書ける同世代の彼が死を選んだ事に混乱した。大人になれてしまった今も，死の真相は解けず，本当に 12 歳の詩なのかと疑ってしまう。

（久我のもり図書館司書）

石川 啄木／著
浅野 晃／編
白凰社

石川啄木詩歌集　（青春の詩集/日本篇　3）　20

悲しみは悲しみと手をつなぐ　911.56

どちらかといえば直観的な私には，心の内をそのまま記されたようなこの詩歌集がちょうど良かった。27 歳で亡くなるまで波乱万丈に生きた石川啄木の代表的な詩歌と生涯，作品の年譜や解説等がついたこの本は，八方塞がりを迎えていた私にも，彼の悲しみを感じて自分の悲しみをより深く理解し，事柄の愛しさや滑稽さも感じつつ，うまくいかなさと共に生きてゆく心構えを育んでくれたのだ。大人になっても傍に置いている一冊である。

（吉祥院図書館司書）

田中 和雄／編
童話屋

ポケット詩集　1～3　21

心を整える指針としての詩　911.568

本を開き目次を眺めるたび，心惹かれるタイトルが変わります。そして，それらはいつでも，自分自身に新たな発見と驚きを与えてくれます。この本との付き合いは，かれこれ 10 年以上におよびますが，折に触れページを開き，自分が今どんな状態でいるのかを確かめています。詩はシンプルな言葉で，たった数十行で，己を知るツールにもなり得ます。ぜひ試しに，目次を開いてみてください。どこからでも読める 3 冊のシリーズです。

（伏見中央図書館司書）

浅田 次郎／著
集英社（集英社文庫）

鉄道員(ぽっぽや)　22

短編小説も悪くない　913.6

短編小説が苦手でした。なんだか中途半端な結末に，消化不良のまま次の作品を読む。また中途半端。これを繰り返していました。

そんな時，直木賞を受賞したから読んでおこうか，と軽い気持ちで手にしたこの本で意識が変わりました。何度となく涙が滲みました。8 つの作品が収録されていますが，それぞれで感じるものがありました。

それからは，短編小説も良いかもと思えるようになりました。

（左京図書館司書）

新井 素子／著
日下 三蔵／編
柏書房

新井素子 SF&ファンタジーコレクション　3　ラビリンス<迷宮>　ディアナ・ディア・ディアス　23

人生は「迷宮（ラビリンス）」　913.6

迷宮の基本構造を知っていますか？壁伝いに行けば必ず出口につながる，曲りくねった一本道。最初に戻ったり何度も通ったり，迷いながら進んでいく。人生も似ているが，“出口”が必ずあるとは限らない。悩み，苦しみながらも，出口という希望に向かって進んでいく。生を享(う)け，他の生を貰いその生を引き継いで，生きているのだから……。そして必ず「あとがき」も読んでください。この作品，この本すべてが，自分の糧になります。

（醍醐中央図書館司書）

伊藤 計劃／著
早川書房

虐殺器官　24

ラストシーンは希望か，絶望か。　913.6

人に薦めるのはなんだかためらわれるようなタイトルで恐縮だが，命ってなんだろう，言葉ってどこからくるのだろう，と考えこんでしまった夜に寄り添って一緒に考えてくれる，優しい悪魔みたいな本。悲観的な未来を描きながら，どこかに乾いた軽やかさを感じる作品だ。

あなたは，どの登場人物の言葉に共感を覚えるだろうか。

（中央図書館司書）

怪人二十面相　25

懐かしの装丁で味わう金字塔

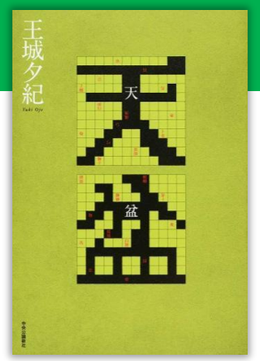
913.6

小林少年らの活躍とほの暗い空気感に胸躍らせたこの一冊から，「少年探偵」シリーズ全読破を目的に図書館に通いつめた幼い日々の記憶が，私に司書を目指させた要因の一つとなりました。

子ども向けながらも決して平易な文章ではなく，3 つの事件を畳みかける展開や被害者側の丹念な描写など，大人が読み返しても侮れない，読み応えが十分にあります。

江戸川 乱歩／著
ポプラ社

（北図書館司書）



天盆　26

頑張る気持ちを奮い起たせる

913.6

将棋のような盤上の遊戯「天盆」。この天盆を制したものが国を動かす，そんな国で人々は立身を目指し研鑽に励みます。天盆が楽しいという一心で極めていく主人公の姿や，才能がないのならば努力で食らいつけばいいと言う登場人物に，胸を打たれます。なんとなく気持ちが落ち込んでいるときに読むと，私もまだまだ頑張れるぞ，と熱い気持ちにしてくれる一冊です。

王城 夕紀／著
中央公論新社

（向島図書館司書）

ゴーストハント　1　旧校舎怪談　27

恋がトッピングのホラー小説

913.6

この作品では，主人公の谷山麻衣たちが，怪奇現象は本当に幽霊の仕業なのかを科学的に調査し，解決していきます。この作品の魅力である登場人物たちは，個性が強いけど優しく愉快で，物語を賑やかにしてくれます。ですが，恐い場面は，リアリティのある描写であまりにも恐ろしくてゾッとする，笑いと恐怖が絶妙なバランスで描かれています。私がファンタジーやホラー小説がより好きになるきっかけとなった作品です。

小野 不由美／著
ＫＡＤＯＫＡＷＡ

（山科図書館司書）

スキップ　28

なにがあってもわたしはわたし

913.6

女子高生がある日目覚めると，そこは自分が 42 歳になった 25 年後の世界だった。高校生の頃に読み，残酷な現実にも自暴自棄にならずに，まっすぐに向き合おうとする主人公の姿が眩しく，憧れに似た感情を抱いたことを覚えている。あれから数十年経った今読み返してみると，わたしはあの時に描いた，こうありたいと思う人に少しでも近づけているのかと自問せずにはいられなかった。

北村 薫／著
新潮社（新潮文庫）

（こどもみらい館子育て図書館司書）

姑獲鳥(うぶめ)の夏　29

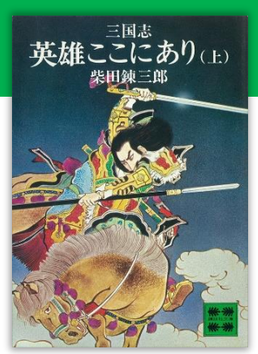
眩暈がする，坂の向こうの新世界

913.6

密室から消えた男，20 ヶ月妊娠したままの女，世間で囁かれる産科医院の奇怪な噂……。古書店主兼陰陽師の京極堂が奇妙な事件の“憑物落とし”をする百鬼夜行シリーズの 1 作目。滔々(とうとう)と流れるような語り口で，本の厚さと情報量の多さにも関わらずどんどん読めてしまいます。このシリーズを読んで自信がついて「分厚くて難しそう」という理由で面白い本を避けてしまうことがなくなり，読書の世界が広がりました。

京極 夏彦／著
講談社

（岩倉図書館司書）



英雄ここにあり　三国志　上・中・下　30

登場人物の個性が大爆発！

913.6

出会いは中学卒業の春のこと。当時みたテレビアニメの『三国志』で，私は諸葛孔明に憧れていた。そんな時，偶然はいった書店でこの本の背表紙が目に飛び込んできたのだ。内容は蜀の国が正義で，諸葛孔明が神の如き人物に描かれている，胸熱くなる英雄譚！まさに私が欲している本だった。この出会いは私に「求める本は必ず向こうからやってくる」という確信を抱かせ，いずれ中国は成都に旅行するきっかけをもたらしたのだった。

柴田 錬三郎／著
講談社

（こどもみらい館子育て図書館司書）

西の魔女が死んだ　31

魔女修行，始めてみませんか

913.6

「いちばん大切なのは，意志の力。自分で決める力，自分で決めたことをやり遂げる力」今でも迷ったときに背中を支えてくれる言葉である。学校へ行けなくなった主人公が，森で暮らす西の魔女ことおばあちゃんのもとで過ごし，一歩を踏み出す。丁寧で心地よいリズムの暮らしは豊かに生きるヒントに満ち，おばあちゃんの言葉は読み手にも授けられ，寄り添ってくれる。人生に迷ったら，魔女に会いに。毎日がちょっとだけ，変わるかも。

梨木 香歩／著
新潮社（新潮文庫）

（右京中央図書館司書）

i（アイ）　32

逆境に対峙する強さと愛

913.6

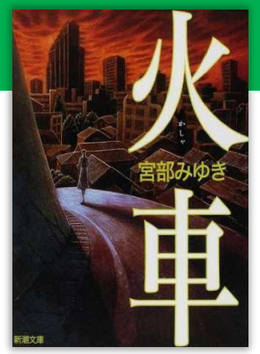
「この世界にアイ（虚数の「i」）は存在しません。」

数学教師の言葉に衝撃を受ける主人公アイ。アイは虚数の「i」を「アイ（自分）」に置き換え，自分の存在について探究していきます。周りの愛に救われながら，逃げずに自分と向き合い葛藤する姿に心打たれます。

自分に自信が無い時に何度も読み返し，力強く背中を押してもらった一冊です。読後の爽快感と，心が愛で満たされる感情は，他の何にも代えがたいものを得ることができます。

西 加奈子／著
ポプラ社

（左京図書館司書）



火車　33

いまだにカード決済に臆病です

913.6

社会問題にもなったカードローンや自己破産。そんな言葉も聞いたことはあるという程度の，のんきな新米社会人の頃に読みました。お金に人生を翻弄されながらそれでも生き抜こうと，それぞれ違う方法を選ぶ 2 人の女性が描き出されます。その過程に「お金って，カードって怖い！」と震えあがりました。物語のラスト，「君の話を聞きたいと思っていた」の言葉に，何度読み返しても光を感じるのです。

宮部 みゆき／著
新潮社（新潮文庫）

（向島図書館司書）

ノルウェイの森　上・下　34

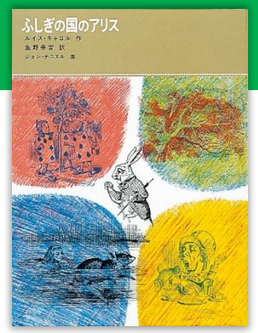
人の死と魂の救済を描く青春小説

913.6

人生の節目で何度も読み返す，わたしをつくった大切な一冊。主人公のワタナベは，暗い影のある大学生。高校時代に親友のキズキを自殺で失って以来，彼のまわりでは大切な人が次々に死んでゆく。悲しみや恐怖，失意のどん底の中で，彼はどのように大切な人たちの死を乗り越え，立ち直っていったのか。わたしは，登場人物のそれぞれの純粋さや不器用さをせつなく，悲しいと感じる。死というものが，身近にあると考えさせられる一冊。

村上 春樹／著
講談社

（久世ふれあいセンター図書館司書）



ふしぎの国のアリス　35

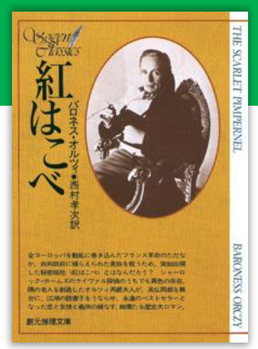
有名な文学作品の挿絵のひとつ

933.6

ベストを着たへんてこなウサギを追って，アリスはウサギ穴に飛び込み，不思議な世界に迷い込みます。というディズニーアニメにも，ハリウッド映画にもなった有名なお話ですが，たくさんの画や訳でも出版されています。その中で，初版のジョン・テニエルの画は，アリスの不思議な世界をよりいっそう魅力的にして，本を手に取る素晴らしさを教えてくれました。

ルイス・キャロル／作
生野 幸吉／訳
ジョン・テニエル／画
福音館書店

（山科図書館司書）



紅はこべ　36

思い出の本には，あの頃の私が

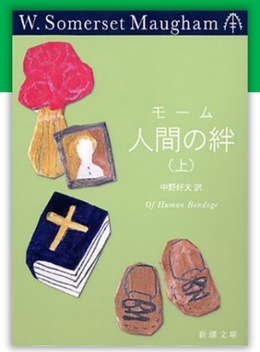
933.7

舞台は 1792 年フランス革命の最中。連日処刑されていく貴族達。そこへ現れた英雄，紅はこべ。20 人で構成されたこの結社は，変装を駆使し，貴族たちを次々とイギリスに亡命させていた。紅はこべを捕まえようと狙うフランス大使との攻防。痛快歴史小説！

学校の図書室で出会い，本好きになるきっかけになった本。歴史背景にも興味が広がって，夢中で調べた思い出。読み返すたび，あの頃の私が脳裏に蘇ってくる，懐かしい一冊。

バロネス・オルツィ／著
西村 孝次／訳
小倉 敏夫／カバーデザイン
東京創元社（創元推理文庫）

（移動図書館司書）



モーム／著
中野 好夫／訳
新潮社（新潮文庫）

人間の絆　上・下　37

人生ままならない，でも大丈夫

933.7

モームの自伝的小説であるこの作品は，主人公フィリップが生まれてから結婚するまでの物語で，幼くして両親を亡くしたり，足が不自由で劣等感をもったり，恋愛やお金など苦労が重なります。フィリップが画家の先輩に「人生の意味とは何か」と聞くと，先輩は「ペルシャ絨毯だ」と答え，自分でその答えは出すのだと言われます。人生経験を経て，フィリップが答えを出した場面が印象的で，今も心にグッときます。

（吉祥院図書館司書）

サン=テグジュペリ／作
内藤 濯／訳
岩波書店

星の王子さま　40

我が人生の，“座右の書”。

953.7

昔読んで感動して以来，大好きな本です。特に，「心で見なくちゃ，ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは，目に見えないんだよ」というキツネの言葉は，いつ読み返しても心に響きます。人間，何かと目に見えるものに振り回されがち。そんな時，この言葉を思い出して，自分を見つめなおしてみたり……。

私にとってこの本は，自分の読書人生の中で忘れられない一冊であり，まさに「座右の書」といえる本です。

（下京図書館司書）

ディートロフ・ライヒェ／作
佐々木 田鶴子／訳
しまだ しほ／絵
旺文社

フレディ　世界でいちばんかしこいハムスター　38

本の面白さを教えてくれた一冊

943.7

ペットショップで生まれたゴールデンハムスターのフレディは，自分を買ってくれる人を待っていました。兄弟たちと同じケージに入れられて，頭を使うかわりに回し車を回す生き方なんて，まっぴらごめんだったからです。自由を手に入れるため，フレディは人とコミュニケーションを取ることを決意します。小さなハムスターが大きな世界に立ち向かう姿に，わくわくさせられました。子供の頃，本を好きになるきっかけをくれた一冊です。

（久世ふれあいセンター図書館司書）

瀧村 有子／さく
鈴木 永子／え
福音館書店

ちょっとだけ　41

子育て中のあなたへ贈る１冊

E

なっちゃんの家に赤ちゃんが産まれました。お買い物に行く時，ママは赤ちゃんを抱っこしているので，なっちゃんと手を繋ぐことができません。なっちゃんはママのスカートを「ちょっと」だけつかんで歩きました。のどがかわいた時，ママは赤ちゃんのお世話をしていたので，自分で牛乳をだし，やっとのことで「ちょっと」だけ入れることができました……。どの場面のなっちゃんも愛おしくてたまりません！

（下京図書館司書）

ケーテ・レヒアイス／作
松沢 あさか／訳
カレン・ホレンダー／絵
福音館書店

ウルフ・サーガ　上・下　39

秩序をめぐる狼たちの物語

943.7

自然の掟にしたがい生きる主人公狼たちは，狼の楽園を目指す巨大狼とその群れに支配されてしまいます。厳格に管理される狼の楽園は安定が約束される一方，そこになじめない者は排斥されることに。自然を愛する狼たちは逃亡するものの，故郷を取り戻すため再び巨大狼と対峙します。

主人公狼とカリスマ性あふれる巨大狼の対峙シーンでは，種族の繁栄と自然とのバランス，そして“生きる”ということについて考えさせられます。

（西京図書館司書）

クロケット・ジョンソン／作
岸田 衿子／訳
文化出版局

はろるどのふしぎなぼうけん　42

クレヨンで広がる不思議な世界。

E

登場人物は，はろるど１人だけ。彼がむらさきのクレヨンで壁に絵を描くと，場所も自分の大きさも自由自在。海を歩いたり，時には飛行機にぶつかりそうになったり……。小さい頃，クレヨン１本でどこにでもいける，はろるどと彼の想像力に夢中になりました。久しぶりに読んでみて，大人になった今だからこそ，気づかされることがいくつもありました。はろるどとの不思議な冒険の旅に，みなさんも一緒に出てみませんか。

（西京図書館司書）